

# おしゃべり会

働くこと、しょうがいのこと、生きること。スタッフ、メンバーがそれぞれの思いを語り合いました。

「へー、そんなふうに思っていたのー」「やっぱり、いろんな見方があるんだね」など、新しい発見や知られざる素顔を見つけることができた「ひととき」でした。

カットは、うららさんが描いてくれました。

## 嶋谷

僕は前から聞いてみたいことがあって、みんなどういうきっかけでピーションに参加したのか、それをまず聞いてみたいな。らずりさんは？

## らずり

生活支援センターのかたに「ボランティア的なことをやれば？」と言われて、いーはと一ぶにきて、そこで「助成金事業をやるんだけど」と言われて参加しました。そんな感じかな。

## 聖子

わたしは健ちゃん（笠原）が勤めていた学校の先生とうちの親が同級生で、その関係で話があり、たまたまわたしが使っている「\*\*\*\*\*」（居宅介護サービス事業所）と健ちゃんもつながりがあり、おいでよって健ちゃんに誘われて入った。

## うらら

わたしは、いーはと一ぶにお父さんの知り合いがいて、その関係で入りました

いーはと一ぶの2階で仕事をしている人で、なんという人かわかんないんですけど、年代は30くらい。その人がお父さんの知り合いだったの。

最初はらずりさん、笠原さんの3人で活動を始めました。

## こうじ

去年の4月に就職したんですけど、花の植物を育てるビニールハウスに。ま、環境良かったんですけど、上司も優しくて。急に12月くらいから景気が悪くなってしまい、花が売れなくなり、経営が厳しくなり、リストラされてしまい、いーはと一ぶでボランティアをするようになりました。夏の講演会で笠原さんと出会ったので、手伝ってみようかな、と思った。詩を作ったり、カレーの調理などいい経験ができたな、と思っています。先週就職活動をして、今日か明日に結果がわかるので、いろいろな経験を味わいたいと思います。

## 嶋谷

僕はピーションができる前に笠原さんと会ったことがあって、何回かメールの交換をしていて、笠原さんに「こういうサークルを始めるんだけど、嶋谷さんも入らないか」と誘われていたんだけど、僕のほうもそのときいろいろ物を書いたりして、なかなかお話にのれなかったことがありました。で、去年の秋ごろ、山口さんに独り暮らしの情報を得たいから、ちょっと話を聞かせてほしいと言われて一はと一ぶに来て、そこから、また笠原さんとも会って、話をして、ピーションに参加させていただきました。

で、最初はなんというか、話は聞いていたんだけど実際どんなことをやっているかわからなかったもので、わかんないまま1か月くらい参加してて、専門学校での講演があって、そのとき、チラシを作って、そこからやっとピーションのメンバーになれたかなと思いました。

そんなようなことでしたけど、やっぱりこの間お給料をいただいて、ここは働くところなんだな、働く練習をするところなんだなと思いました。やっと自覚が出てきたと自分で思ったんだけど、みんなはここで活動して働くということについてどう思いますか？

## らずり

俺はまあ、働くことってというか、最初はボケボケだったけど、最近、やっとなんか冴えてきたかな。仕事に関して、勘というか、そういう働くことに関して、戻ってきたかな。と感じています。

## 嶋谷

らずりさんは働いたこと、あるんだよね？

## らずり

ちゃんと正社員として働いたのは24～27歳の3年間。今やっと勘を取り戻したって感じかな。

## 嶋谷

こうじさんは？



## こうじ

9か月（花の栽培）です。その前は、作業所です。ちゃんと働いたのは、その9か月です。

らずり

基本的には働くこと好きなの？ そのへん……なんだよな。

こうじ

ふつうかな。

嶋谷

聖子さんはどうですか？

聖子

リサイクルショップでの仕事は15年もやっています。

ピーシャンに入って一番良かったのは、同世代の病気や障害をもつ仲間と会えたことと、いろいろな役割を任され、最初は、正直たいへんだったけど、お金をもらって最後まで自分なりに手を抜いてはいけないんだな、ということも学んだし。でも実際、リサイクルショップでは全部仕事がセットされていて、これとこれやってね、という感じだったから、自分で考えてやるということは少なかった。だから、カレーの研修会でも自分で企画してみんなに手伝ってもらいながら、最後までひとつのことを仲間とやりとげられたということがすごい いいことでした。だからピーシャンに入ってよかったです。

嶋谷

うららさんは？

うらら

仕事はやってないんですけど、アルバイトはしました。1年ぐらいなんですけど、オムライス亭と、なんだっけ、居酒屋で働いていました。

嶋谷

やっていたら良かった？

うらら

つらかったことはないです。

嶋谷

楽しかった？



うらら

楽しかったです。

で、この病気になったのも、アルバイトに行く直前になったんです。

こうじ

その前は健常者だったんですか？

うらら

はい。

らずり

それって何歳のころ？ 聞いちゃ、まずい？

うらら

17歳のときになりました。脳の病気です。

嶋谷

僕は今まで働いたということは、あるといえばあるんだけど。前に行っていたデイケアで、駄菓子を売っていて、その店番とかやっていたけど、どっかの会社に入って勤めたりはまだ 経験がないです。あとは、たまにパソコンで原稿を打つのを頼まれて、それでお金をいただいたことはあります。

らずり

いわゆるバイト、だよな。

嶋谷

そう言えるかは……ただ、ちょっと思うんだけど、生きていくために働くというのは僕にはまだ経験がないので、生活のために稼ぐ意味がまだまだわかっていないな、と思うところがあります。

らずり

俺もそうだな。以前、働いていた時は、ただ、お金のために働いていたという感じかな。会社勤めの経験だけはあるけど。

聖子

わたしはただお金を得るということもあるけど、働くことの意味って

障害のあるなしにかかわらず、人間は社会の役に立たないと生きていてもつまらないというか、仕事のやりがいというか、障害とかあっても誰かの役に立ってるはずだから、それを考え方のもとにしています。

## 嶋谷

障害があってもできることがそれぞれあると思う。障害があるから働けないということじゃなくて、障害があっても働ける場所があれば、働けると思うんだけど。

社会でもしょうがい者が働ける場所を設けてもらいたいけど、自分たちからも働く場所をつくれるように発信していく必要がある。両方必要だと思う。

## 笠原

嶋谷さんの考える仕事ってのは、具体的には、どういうイメージなの？

## 嶋谷

パソコンを使って、書類を作ったり事務的なまとめをやる、そういう事務関係の仕事はできると思う。

## らずり

みんなにとっての理想の働く場所は？

## うらら

簡単な仕事で、給料がいいところ！

## こうじ

しょうがい者がいることで、明るく環境が良くなって、人と人との交わりが明るくなるというか。健常者同士だと、職場がぎくしゃくすることもあるけど、しょうがい者がいることで環境もよくなって仕事もやりやすくなって、そういうのが理想だと思います。

## 聖子

しょうがい者でも特別扱いされない職場。しょうがい者である前に人間だと思うから。配慮は必要だと思うけど、言語障害があったりすると、知らない人は差別するところがあるから……差別っていうのかな、そういうのがなくて自然体で誰もが気分よく働けることが、わたしの理想の職場です。

障害があるが故の間違った考え、健常者から見た考え、差別って言葉はおかしいかもしれないけど。

### 笠原

聖子さん、あの一、たとえば、就職の採用のとき、Aさんと、Bさんという人が採用の試験を受けて、で、まあ、「こっちのほうが使えそうだな」みたいな感じで、Aさんを採用したりするわけなんだけど、そういうのは聖子さんの言う『差別』ではないの？

### 聖子

それは差別ではないと思う。採用されてから、わたしの場合だったら「言語障害があるから」という理由で、「子ども」扱いされてしまうとか、そういうイメージ。

### 嶋谷

らずりさんの理想の仕事は？

### らずり

楽なやつ！ 一番いいのは、不労所得！

投資とか、ね。でも、なにかしらやることがあったほうがいいよね。それが仕事になるかどうかはわからないけれど。

(了)

嶋谷

らずりさんは、どういうことがやりたいの？

らずり

やりたいことがなかなか出てこないもんだから、まだ、宙ぶらりん状態なんだよ。

嶋谷

でも、今も、パソコンで（ピーシャンの）会計の仕事とかやってるけど、これからもやりたいと思う？

らずり

エクセルの数字とかをいじるのは好きなんだけど、それをずっと仕事として続けていけるかと言うと、自信がない。

嶋谷

うららさんは、たとえば、絵を描くことを仕事にしたいと思いませんか？

うらら

わたしは、けいれんがあるので仕事には就けないです。と決めつけているのかもしれないです。

こうじ

でも、あると思うよ。仕事はいっぱいあるから、あるかもしれない。ま、作業所とかもあるから、毎日家にいるよりは、みんなと話すのが好きであれば、そうしたほうが良いと思う。

嶋谷

こうじさんはいろいろ面接に行っているみたいだけど。

こうじ

昨日いいことがあって、友達が勤めている会社で、しょうがい者枠が2名あるというのを聞いて、支社に聞いたら、募集はありませんよ、って言われたんだけど、母が本社に熱心にアピールしてくれたら、受けこたえてくれたかたがとても親切なかたで、上司に聞いて、期待にこたえ



られるかわからないけれど、面接だけでもということで、本社から電話を受けた人が支社にわざわざ来てくれることになりました。3月の初めに面接だけ受けることになりました。

嶋谷

こうじさんは、自分から仕事を求めていっているよね。

こうじ

ハローワークにいったきも、あいさつをして、よろしくお願いします、と言ったら、向こうの人も親切にしてくれた。まわりも、自分も積極的に職を求めているから、むこうの人も手伝ってあげようみたいな、熱い思いが伝わって、手伝ってくれてありがたいな、と思う。

嶋谷

そういう気持ちがあるから、まわりが動いてくれるんだね。

こうじ

うれしいです。

らずり

嶋谷さんは、そういう面接とかって受けたことないの？

嶋谷

ないですね。らずりさんは？

らずり

あるよ、何回か。で、落とされたりもした。で、一つ受かって働いた。

嶋谷

よく僕のまわりでしょうがいをもっている人で、仕事をやりたいんだけど、自分に何ができるかがわからないっていう人がけっこういたりするんだけど、そういうのはどうだろうねえ。

らずり

おれの場合は思い込みかもしれないんだけど、肉体労働は無理かな、と思って事務系かなと思って働いたんだけどね。

嶋谷

こうじさんは仕事を見つけるときに、一番何をポイントにしていますか？

こうじ

作業所に 10 年間くらいいたんですけど、そのときに、清掃関係をメインにやってたんで、そういう関係の仕事をしたい、あと高校のときに品出しをやってたんで、そのへんを生かしたいなど。自分はじっとしている仕事より、体を動かす仕事をしたいな。

嶋谷

やっぱりそれぞれ得意なものはあるからねえ。

笠原

仕事をする、しないの間に、途中の段階があると思うんだけど。仕事に必要な知識を勉強するとか、履歴書の書き方を調べるとか、実際に面接に行くとか。

就職が決まったとしても、すぐ、それで仕事ができるわけじゃなくて、最初はうまくできなくて、そこでまた教わったり、学んだり、失敗したり、怒られたりしながら、それで「仕事ができる」になっていくと思う。

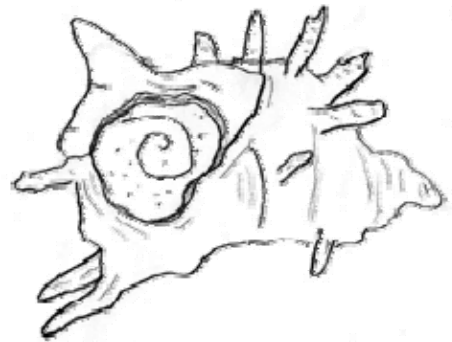
こうじ

うららさんは働いてみたい？

うらら

仕事はしたくない。でも……

絵とかファッション系ならやってみたい。



こうじ

自分で作った服を着てみたいとか？

そういう仕事を調べてみたら、あるんじゃないかな。

うらら

調べるのもたいへん、

今は「家事手伝い」って感じ。女の子はいいですよ、家事手伝いって言えるし。男の人は、たいへん

らずり

男は引きこもりとかニートになっちゃうよね。

うらら

それに自分はしょうがい者だし。

こうじ

あんまりそういうことは考えない方がいいと思う。

笠原

うららさんの場合は考えないってわけにはいかないんだよね。  
発作があって、いつ倒れるかわからないっていうのもあるし。

らずり

僕とか嶋谷さんの場合も、考えないでってわけにはいかないよね。

嶋谷

人それぞれだと思うけど、僕もしょうがい者だから制限があると思うことはある。

でも、それは置いといて、自分がどういうふうに生活をするかとか、どこに出かけたいかとか、自分の気持ちをまず考えて、そこから方法を考えるようにしてる。

らずり

行動の制限でのストレスっていうのどう？

うらら

自転車に乗りたいとか、車に乗りたいとかはあります。

こうじ

自分は、車イスとか使ってないけど、車イスの人は、不自由で、人の力が必要だけど、車イスの人を通して優しさとか学ぶことがある。嶋谷さんはちょっとしゃべるのは苦手だけど、聞き取りを解釈して、伝えるから、得るものがたくさんあるってこと。

嶋谷

僕もやっぱり行動に制限があって、自分で動ける範囲って限られてる

から、この範囲をどうやって広げるかが子供のころからのテーマでした。高校のときに電動車いすに乗るようになって、自分で表に出るようになって、そこからだいぶ行動範囲が広がった。今もやっぱり自分が出たいときに、なかなか出られない。ヘルパーさんをお願いしないと、一週間前とかに頼んでおかないと、たとえば明日、出たいといっても、なかなか思うようにならないですよ。

らずり

俺もちっちゃいときは、自転車乗れなかつたりしたから、行動範囲が狭かったね。小学校の低学年くらいまでは友達とかについていけるんだけど、大きくなるとついていけなくなって、難しい面があったよね。今も、なかなか出らんないから。前までは、親が車もってただけど、今は、乗れないので、行動するための道具がないので、けっこう困るね。

嶋谷

たとえば、らずりさんも移動支援があれば、もっと出られる？

らずり

おれの場合はね、外に出るってことが精神的な面で、いやなのね。そっちのほうが大きいね。うららさんもさっき、車に乗りたいとか言ってたけど、免許、取れたら取りたい？

うらら

しょうがい者じゃなかったら、取りたい。

嶋谷

僕も車を運転したいと思うよ。

うららさんはもともと出かけるのは好きなの？

うらら

好きです。おしゃれしたり。

嶋谷

買い物とかも？

うらら

はい



こうじ

洋服が好きなんですよ。

嶋谷

うららさん一週間どのくらい出かけるの？

うらら

毎日、犬の散歩があるので。家のまわりをうろちょろしています。

こうじ

出かける時に、不自由なことはありますか？

うらら

(右)手が動かないので。フンを片付けるものを持つじゃないですか。あれを持ったり、リードを持ったりするんで大変です。

こうじ

パニックになったことは？

うらら

横断歩道で犬にフンをされたときです。

らずり

俺はほぼ1週間出ないんだなー。

嶋谷

僕は週の半分くらいかな。独り暮らしだから、食料品の買い物に行ったり、銀行に行ったりもしなきゃいけないしね。

こうじ

僕は毎日。月曜日から金曜日まで3カ所でボランティア活動をしています。前に言ってた作業所の手伝いと、しょうがい者の児童保育所みたいなところと。交通費は出ています。そこの職場の人が高校のときの担任の先生だったので、たいへんお世話になったのでボランティアに行っています。

(了)

嶋谷

今日のテーマは感謝の思いについて、いろいろ話したいと思います。

僕は、今、独り暮らしをしています。一人暮らしをやって4年半になるんだけど、今まで、50人ぐらいのヘルパーさんにお世話になってます。僕の場合は、ヘルパーに来ていただかないと、生活ができないので、いつもヘルパーさんとい関係を作っていこうと考えてます。

そこでやっぱり、大事になってくるのが、感謝の気持ちになります。やっぱりいつも、介護の時間が終わるときは「どうもありがとうございます」という言葉を忘れないようにしています。

まあ、ヘルパーさん以外にも、友達とか、家族とか、いろいろな人とかかわっていくなかで、感謝の気持ちは、大事だなあ、と思うんだけど、みんなはどうでしょうか？

聖子

同意見です。やっぱり、それがないと円滑にいかないと思うし、それは生きていく中でしょうがいのあるなしにかかわらず、生活していく中でとても大事だと思うから、ヘルパーさんとの関係じゃなくても、ありがとう、とと言うことは大事だと思います。わたしが一番怖いのは、一日に何回も「ありがとう」って言っていると、まひしてくるっていうのかな、当たり前すぎちゃって、ありがとうを心から言えない時があって、気をつけています。

嶋谷

それ、わかる。

聖子

どうしても義務的になっちゃって、それが相手に伝わっちゃうのが怖いから。でも、それが生活だから。

それがあまりにも言うことが当たり前、になっちゃって。

嶋谷

言葉だけになってしまう、ということだよね。

聖子

ホントはそれじゃいけないんだけど、ときどき思い直しています。

ヘルパーさんが変わるたびに、言わなくちゃいけないので、まひする怖さってというのが、やってもらって当たり前ではないんだけど、「おはよー」みたいになっちゃって。それがないように気をつけたいなあ、と思っているけど、なんか、ホントに自分で決めて、自分で人に頼んで、自分で、こういうふうに行動できるっていうのは、ヘルパーさんだけじゃなくて、家族とか、みんなのおかげだから、ありがとうっていう気持ちはいつも持っています。

**嶋谷**

こうじさんは、どんなときに「ありがとう」とかって言う？

**こうじ**

感謝は、自分によくしてくれる人に感謝して、まあ、いろんな人に感謝してます。自分も感謝される側になりたい。

**嶋谷・聖子**

それ、いいねえ。

**こうじ**

人に何かをしてあげるっていうのは、感謝されるっていうメリットがあるから、自分に返ってくるから、それが喜びに変わるっていうか、それが、いいと思う。

**嶋谷**

自分も感謝される側になりたいっていうのはいいよね。

**聖子**

それはみんなが思っていることだよ。わたしはここでみんなに会えたことも感謝だし。

**オヤジ**

俺は中途障害だから、ボランティアとかそういうのあまり興味がなかった。車イスの人とか、社会的弱者の人の気持ちはわからなかったし、わからなくていいと思っていた。

でも、自分がこういう状態になって、いろいろな人から親切にしてもらおうと、気持ちが溶けていくのを感じる。さっきこうじくんがいったみたいに人に感謝されたいと思う。

もっと早くそうなればよかったんだけど。

こうじ

でも、気づいてよかった。

らずり

俺はみんなと違って引き込みりだったので、俺は、ここ（ピーシャン）がこういう雰囲気、存在するってことに感謝している。他の施設にもいろいろいったんだけど、やっぱり、ちょっと違うんですよね。一言で言うと、居心地がいいっていうか、俺はしょうがいのことってよりもひきこもっていたことからはじまって、仲間になっていったっていうか、そこが一番、感謝するところです。

聖子

外、出られてよかったねー。

らずり

そうすっねー。



あい

わたしは、ヘルパーさんが入るまでは、家族にいろんなことをやってもらって、お母さんとか、たとえばトイレとかでも、つれてってもらったら、ありがとうって家族にいたりしている。

ヘルパーさんが入るまでには、そんな制度あるって知らなかったから、むこうでは、まだ、そういう時代じゃなかった。遅れてたから。中学部3年生のときから、使い始めたんだけど、それとは違うヘルパーさんを使ってたんだけど、やっぱり入れ替わり立ち替わり、朝と夕方、来てもらった時は、ご飯やってもらったり、家に入れてもらったり、お母さんいなかったときは、そのときは、お風呂介助もトイレ介助も。

介助が終わった時はいつも、ありがとう。って、最後はありがとう、いつもありがとう、またよろしくお願いします。って言ってたんだけど、やっぱり入れ替わり立ち替わりヘルパーさんが変わっちゃうと、こっちもバランスとか 私も人見知りとかそういうのあるから。

こうなったのは、理由があって、トラウマが残ってるのと、ここくる前に保育園上がってから、寮に入っていた。寮と学校がくっついていて、その中に入っていて、先生がときどき、わざとじゃないけど、手が滑っちゃったりして、よく落ちてたから、それでトラウマになっちゃって、



それから同じ人じゃないと駄目になっちゃった。

あまり人が変わるとなれるのも時間かかるし、転倒とかもよくしてたから。

それでうまくいかなくなっちゃったということもある。

**オヤジ**

たとえば、ヘルパーさんを比べちゃうことある？

**あい**

はじめての人には 人見知りとかあるので、慣れるまで時間がかかる。やってもらってこの人は大丈夫だってなったら、だんだん大丈夫になるときもあるし。

**オヤジ**

でも、あいちゃんは、どのヘルパーさんにもなるべく慣れようとしてるんでしょ？

**あい**

でも、合う、合わないがあるから。

**聖子**

それは聖子にもあるから、みんなにもあると思う。

**あい**

ホントにヘルパーさんがつくまでは、家族じゃないとダメだとか、学校の先生も慣れるまで信じられなかったし、受け入れられるかな、と思っても、なかなか自分で受け入れたいと思っても、受け入れられないという自分自身の心の中にトゲっていうか、なんかひっかかっちゃって、それがなんていうんだろ、自分の心の中に閉じこもったりすることなのかなあ、と思ったりして。

**嶋谷**

僕は、前は、「ありがとう」があまり言えなかった。ヘルパーの制度がない時に、自分でインターネットでボランティアを募集したりして、見つけて、そういう関わりあいを始めてから、やっぱり何かやってもらったときは、「ありがとう」って言った方がいいって思って、それから感謝の気持ちを持つようになりました。

それまでは、家族にやってもらっていたから、それが当たり前だと思  
ってて、ありがとうって言わなかったんだけど。

聖子

わたしも家族にはなかなか言えない。言うようにしてるけど、ある程  
度の年齢がくるまで言えなかった。

今は言えるんだけど。

あい

それは確かに、そうだと思う。

聖子

気持ちがないわけじゃなくて。

オヤジ

俺も奥さんとかにはあんまり・・・言わないかな。

らずり

家族に言わないってのは、しょうがいがあるとかないとかはあんまり  
関係ないかも

たしかに感謝する機会が多いってのはあると思うけど。

こうじ

感謝することで自分が成長でき、相手も成長できると思う。

家族にも、まあ、ありがとうは言います。

あい

そりゃわかるような気がするな。

わたしだったら誕生日の日にケーキとか買ってきて、お母さんにあげ  
てありがとうって言うとか。去年、わたしは、ヘルパーさんにも、お母  
さんにもケーキを自分のと合わせて3つ買って、みんなで食べようって、  
2月はヘルパーさんの誕生日でもあったから。ふだん言えない言葉を何  
か買って、ありがとうっていうとかね。

聖子

でも、ふだんでも言ってるんでしょ？

あい

言ってるけど、言えないこともあるからね。そのときはメールでやりとりしたりとか。

オヤジ

メールだと気が楽？

あい

ヘルパーさんと1対1で自分の気持ちを言ったことはない。ありがたいとは言えても、自分の気持ちは言えない。

聖子

わたしも昔はそうだったけど。

あい

話せば話せるんだけど、うまく伝わらないこともあって。メル友には、言葉がちんぷんかんぷんって言われる。

オヤジ

メールは携帯でやるの？ それともパソコン？

あい

携帯を使ってる。

(了)

## ●まとめ

今回のおしゃべり会では、スタッフやメンバーがそれぞれ問題意識を持って、それに悩んで、何か解決の方法はないか？ という気持ちと、人との関わりかたについて、それぞれのスタンスで向き合っていることに気づきました。

ふだんはなかなか言葉にできない思いを交し合う。おしゃべり会は、ピーシャンの仲間意識をさらに高める時間になりました。

[編集担当：嶋谷 伸一郎]



# アンケート 「外から見たピースェン」

「Peace Sun Shine」の活動に間接的に関わっていただいた方、講演会や研修会に参加していただいた方を対象に、「外から見たピースェン」をテーマにしたアンケートにおこたえしていただきました。

ご協力していただいた方々には、心より感謝いたします。

# ピースサンシャイン

## 活動についてのアンケート

Q 1. ピースサンシャインとの関わりを教えてください。

該当するものにチェックを入れてください。

活動関係者      企画参加者（参加企画名

メンバーまたは企画参加者のヘルパー

Q 2. どちらでピースサンシャインの企画・活動をお知りになりましたか？

該当するものにチェックを入れてください。

ピースサンシャイン関係者からのお誘い

チラシ                      知人友人

その他（活動関係者に同行して）

Q 3. ピースサンシャインの企画・活動などに関わられて、どのような感想をお持ちになりましたか？

大変良い活動を始められたと思い

これからの期待を持っています。

Q 4. 「ピースサンシャイン」のようなしょうがい者の就労支援・自己実現・社会参加を目的とした助成金事業に対して、ご意見・ご感想・アドバイスなどありましたらお書き下さい。

「しょうがい者」と一言で言っても（先天的、後天的・・・等々）いろいろな個性を持った方がおられ、多くの方がそれぞれの力を発揮し、自分達で視野を広げ、行動範囲を広げて行く活動は大変意義のあるものと思います。（とはいえ、リーダーの役割は大きく、頭の下がる思いです）

Q 5. 地域に暮らすしょうがい者が、より良い生活を送るためには、どのようなサービスや、仕組みが必要とお考えでしょうか。ご意見をお聞かせ下さい。

\*頂いたご意見・ご感想などを活動文集に掲載致したいのですが、

ご了承いただけますでしょうか？

承認

未承認



# ピースサンシャイン

## 活動についてのアンケート

Q 1. ピースサンシャインとの関わりを教えてください。

該当するものにチェックを入れてください。

活動関係者      企画参加者（参加企画名

メンバーまたは企画参加者のヘルパー

Q 2. どちらでピースサンシャインの企画・活動をお知りになりましたか？

該当するものにチェックを入れてください。

ピースサンシャイン関係者からのお誘い

チラシ                      知人友人

その他（利用者宅にいるときに、誘いの電話が入った。）

Q 3. ピースサンシャインの企画・活動などに関わられて、どのような感想をお持ちになりましたか？

勉強になりました。ためになる番組を見ているようです。

Q 4. 「ピースサンシャイン」のようなしょうがい者の就労支援・自己実現・社会参加を目的とした助成金事業に対して、ご意見・ご感想・アドバイスなどありましたらお書き下さい。

このような事に助成金がでるということは、素晴らしいことだと思う。

Q 5. 地域に暮らすしょうがい者が、より良い生活を送るためには、どのようなサービスや、仕組みが必要とお考えでしょうか。ご意見をお聞かせ下さい。

まだまだ外出したくても出来ないことが多いようなので、そのためのサービスが増えると良いと思う。

\*頂いたご意見・ご感想などを活動文集に掲載致したいのですが、ご了承いただけますでしょうか？

承認

未承認



## ■まとめ■

社会福祉法人いーはとーぶ  
助成金事業担当：笠原 健一

当法人では、さいたま市の相談支援センター、個別の相談・紹介、などを通じ、在宅から社会参加・自己実現を目指す障害者の受け入れを行っていました。事務作業の補助、利用者様との関わりなどをボランティアとして行っていただくこと、などが、その活動の中心でした。

平成 19 年度の後半、その中の数名がサークルを結成しました。それが「Peace Sun Shine (ピーシャン)」です。サークルの名前は、メンバーのひとりが考えました。

メンバーは増えたり減ったり、だったのですが、このサークルを基に、地域に暮らす「何かしたいけど、でもひとりではできない」という障害者のための活動はできないか、と考え、独立行政法人福祉医療機構の「平成 20 年度長寿・子育て・障害者基金(地方分)」へ申請をいたしました。

事業の正式名称は「障害者が創る福祉ネットワーク支援事業」なのですが、参加するメンバーに分かりやすいように、通常は「ピーシャン」という呼称を使用しています。

「障害者自らが主体的に活動を行う」ことがこの事業の柱でした。いつも「何かをしてもらう」だけでは無く、地域や、身近な誰かの役に立つことで、輪を広げ、自分を磨いていこう、という趣旨のもと、様々な活動を行いました。

参加者の目的は、社会参加であったり、自己実現、友だち作りであったりと、様々ではありましたが、「Peace Sun Shine」の中で、「スタッフ」と「メンバー」とを分け、「スタッフ」に属する人には、「仕事」として、事業を進めてもらいました。

市内の相談支援センター等の機関に挨拶に行くことから活動は始まりました。「Peace Sun Shine」のような「場」を必要としている人がいたら紹介していただけないか、と依頼するためです。

挨拶に行く場合、「1：誰が訪問し、何を話すのかを決める」「2：先方に電話をかけ訪問日を決める」「3：訪問後は、礼状を書く」等々の手順がありますが、まず、そこから、上手くいきませんでした。

いわゆるビジネスマナーに属する部分を、活動の中に織り込み、身に



つけてもらうことも、ひとつの課題でした。「仕事がしたい」と言う人はいても、実際に仕事をするためには、敬語の使い方や、段取りの立て方など、が必要になってきます。情報を集め、自ら行動しなければ仕事は得られないのだ、ということを繰り返し伝えました。

もちろん、障害者が、一般の書店に並んでいるビジネスマナーの本の通りに行動できるはずはありません。しかし、たとえば、主要な連絡手段として電話ではなく、FAXを使用している人には、最初の用紙に「計何枚」と書き、最後の用紙に「以上」と書くと分かりやすい、と話しました。

電子メールが主たる通信手段である人には、ビジネスメールの書き方の基礎を示しました。

マナーの本質が、相手に対する誠意にあるのと同様、形式が「正しいか・間違っているか」ではなく、まず、相手に対して思い遣りを持つことの大切さを、「Peace Sun Shine」というチーム自体で、育てていきました。

仲間を増やし、絆を深めていく一方、それぞれの得意なことを伸ばしたり、あるいは、今までやったことのないことに挑戦したりしていくことも活動の中心となりました。

個々人の生活の質を向上させるツールのひとつとして、コンピュータは有効な手段でした。

コンピュータに詳しいスタッフが、他のスタッフやメンバーに、「より便利な使い方」を教え、または直接、自宅へ訪問し、コンピュータの使用環境の整備を行いました。インターネットの「ビデオチャット」を活用し、自宅に居ながらにして、打ち合わせなどが出来るようにしました。

車椅子を使用している人にとっては、家から外にでるためには、まず、ヘルパーなどを頼まなくてはいけないので、自宅から仲間と顔を見ながら直接連絡を取ることができる「ビデオチャット」は有効でした。

イベントとしては、まず、「自分の思っていることを多くの人前で伝える」練習として、法人の職員に対し、研修という形で「講演会」を行いました。障害者として暮らす中で、感じていること、不便なこと、などを各自が話しました。

「人と人が支え合う」ということをさらに一歩進めるため、今度は、敢えて、「Peace Sun Shine」は、舞台裏に回り、病と闘う人たちの講演会をバックアップする、ということになりました。

企画の立案、当日の係分担、チラシの作成、受け付け、司会進行など、「Peace Sun Shine」が中心となって行いました。慣れない仕事が多かったので、スタッフは、それぞれ、苦勞していました。

もちろん、法人の職員や、ボランティアなど、多くの人の支えもあったのですが、それらも含めて「みんなで協力して何かを作る」ということの喜びを感じてもらおう契機となりました。

次に「お料理教室をやりたい」という意見がスタッフから出てきました。

事業とは関係の無い、サークル内での「遊び」ということで、バーベキュー大会を開催したのですが、その際に、スタッフやメンバーが調理に主体的に関われなかったので、自分たちが中心となって企画したい、とのことでした。

提案したスタッフが中心となり、「調理&研修会」を開催することになりました。

誤解の無いように申し添えておきますが、「障害者が創る福祉ネットワーク支援事業」としては、その名称通り「障害者がネットワークを広げること」自体を活動内容としてきました。

従って、たとえば、「調理&研修会」においては、「企画を立て、実現させ、仲間を広げる」という「過程」そのものが事業の内容です。当日の場所代や、材料費などは、参加者から実費を集金しました。助成金の対象とはしておりません。

「調理&研修会」は、これまでの活動以上に、スタッフに任せる部分を増やしたので、作業は難航しました。しかし、その分だけ、よい企画ができ、当日も盛況でした。企画立案・実施の体験ができたというだけでなく、新たにスタッフに加わってくれる人も見つけることができたので、成功でした。

1年間、最後の仕事は、この「活動文集」の作成となりました。

全80ページ以上に及ぶこの文集は、Peace Sun Shineの総力を結集して作成されました。作成の中心となったスタッフは、棒一本でコンピュータのキーボードを操作しています。キーボードが打てないスタッフに対しては口述筆記、携帯電話のメールの転送、など、さまざまな方法を組み合わせて作成が進められました。

作成に携わったスタッフの中に、両手でスムーズにキーボードを操作

できるメンバーはひとりもいません。印刷されたものを見れば、そうとは感じられないかもしれませんが、スタッフには短期間でかなりの仕事量をこなしてもらうことになりました。

企画は、スタッフの話し合いによって進められました。イラストや詩など、文章以外の形で、それぞれのスタッフが参加できるような工夫が提案されました。作業の中心となったスタッフ間で、メールのやり取りをする際、情報を共有できるようなシステムを作り、ワークシェアリング的な部分を意識しながら、作成を行いました。

もともとは、私自身も「Peace Sun Shine」のメンバーでした。病を得て、在宅になっていたところ、声をかけていただいて、社会福祉法人いーはとーぶでボランティア活動をするようになりました。

やがて、事務のパート職員として雇用され、助成金事業の担当者となりました。

「Peace Sun Shine」のスタッフ・メンバーとは、職務として接すると共に、大切な仲間、友人としてつながってきました。

「事業」としてやる以上は、各スタッフに、責任を持って各自の「仕事」に取り組んでもらう必要がありました。

幾度も、衝突がありました。「こんなに厳しく言われたことは無い」「人とこんなに喧嘩したのは初めてだ」と何度も言われました。

結果として、今は、とても和やかな雰囲気、ひとつのテーブルを囲み、昼食を取れるようになりました。

1年という短い時間の中で結果を出すため、強引で性急な手法を取った場面もありました。それが良かったのかどうかは、今後の「Peace Sun Shine」のありかたに、かかっていると考えます。

「Peace Sun Shine」のような「場」を必要としている人は、まだまだ、たくさんいる、というのが、1年間の事業の中で、多くの方に出会い、実感として得たことです。

現在、今後の活動について、活発な話し合いが行われています。私から、では無くて、スタッフの中から次年度以降の活動への動きが生じていることを嬉しく思います。

事業の実施にあたり、多くのご助言や、ご協力をいただきました。篤く御礼申し上げます。

今後とも、ご指導のほど、お願い申し上げます。

(了)